

泥まみれクロマツ3000本 各支部の有志120人が植樹

日遊協社会貢献・環境対策委員会を中心とした各支部有志によるボランティア活動「日遊協共生の森・仙台」が5月18、19の両日、仙台市若林区荒浜一本杉南付近にある田ノ神地区国有林で行われた。この取り組みは、東日本大震災

の津波で被災した海岸防災林を再生させる林野庁の「『みどりのきずな』再生プロジェクト」に参画して行われているもの。2013年5月からスタートし6度目となった今回の活動には、東北支部長を務める谷口久徳副会長、担当理事である知念安光氏をはじめとする社会貢献・環境対策委員会メンバー、北海道支部、東北支部、東京都・関東支部、九州支部等、ホール、メーカー、関係企業、組合関係ら両日で30社以上、延べ163人が参加した。

子供連れの家族も

両日ともに雨の影響により土壌のコンディションは悪く、ぬかるむ地面に悪戦苦闘しながらの作業となったが、0.6ヘクタールの植林地に抵抗性クロマツの苗木3000本を植樹。小さな子どもを含む家族で参加した会員は「泥だ

作業は1日目が先遣隊による下準備、2日目为本隊の植樹という

段取りで行われた。初日、先行して現地入りした社会貢献・環境対策委員会のメンバーは、前日までの雨の影響で所々に水の溜まった地面に苗木を植えるための下準備として、予め石灰でつけた等間隔の目印に沿ってクワやスコップを使って苗の根っこが埋まる程度の穴を本数分、掘削。

翌日、曇天の朝10時、植林地に集合した110人を超える有志は、当日早朝に降った雨の影響で半分が泥沼のようになった状況のなか、埼玉森林サポータークラブの指示通り苗木が根腐れしないような植え方を丁寧に実

らけで水たまりの穴に足を取られたが、子どもも楽しんでいたり、また是非参加したい」などと話した。

知念担当理事があいさつ



1日目/測量で植え付け位置を確認



2日目 谷口氏もクワをふるった



2日目/泥まみれになりながら作業

3000本の苗木が整然と植えられた



平成25年に植えられたクロマツは腰ほどの高さに成長

践。ぬかるみに足を取られ泥だらけになりながらも4時間以上にわたって作業を続け、夕方までに3000本を植えきった。

トータル1万2000本超

日遊協の海岸防災林の再生活動は2013年の初回、仙台市若林区荒浜地区(0・16ヘクタール)にクロマツ770本、ヤマザクラ70本を植林したのを皮切りに、これまで、14年5月は名取市下増田地区(0・17ヘクタール)にクロマツ777本、15年6月は東松山市矢

本地区(0・63ヘクタール)にクロマツ3000本、16年5月は東松島市浜市地区(0・49ヘクタール)にクロマツ2200本と矢本地区にクロマツ800本、17年は仙台市荒浜地区(0・3ヘクタール)にクロマツ1600本を植林してきた。今回の分を合わせると植樹本数の累計は1万2000本超となっている。



参加企業・団体 (株略 順不同)

- ジーピーエム ●西の丸 ●ビッグ・マリオン ●九州エース電研 ●日拓ホーム ●トラストネットワークス ●ABC ●東和産業 ●ピーアークホールディングス ●安田屋 ●富国物産 ●北日本・遊機 ●パイオニア遊商 ●サッポロユウキ ●ピクトリア観光 ●ジー・イー・エム ●正栄プロジェクト ●迫遊機 ●横浜三矢商事 ●ニラク ●J-NET ●ソレイユ ●グローリーナスカ ●ケースベック ●ファイブプランニング ●ピーエスリサイクル ●ティープロ ●アクトユナイテッド ●仙南遊機 ●サミー ●ユーギシステム ●渡部産業 ●カシワギ産業 ●アーミー ●マルハン ●回胴遊商

家族で参加した会員は「来年もまた来たい」▶



110人超の参加者がクロマツ3000本を植えた